

平成 30 年度 第 10 回 国家資格キャリアコンサルタント試験

(JCDA) 実技試験 (論述) 解答例 (中里)

※今回のキーワードは、「クラスを上手く運営できるか」「学級崩壊」「関係が崩れていく」「恐れ」です。

[問い 1] 事例 I と II はキャリアコンサルタントの対応の違いにより展開が変わっている。事例 I と II の違いを下記の 5 つの語句を使用し解答欄に記述せよ。(個々の問題 自己探索 経験 助言 一般化) (15 点)

事例 I では、CCt は CL が担任になったときクラスを上手く運営できるかという悶々とした気持ちに寄り添うことなく、CCt の価値観で CL の内的な思いを「自信」や「勇気」といった一般化した感情の言葉に置き換え、さらに断定的な助言を与えることで、CL 自身の内的な感情をさらに混乱させ、相談は展開せず問題解決へと繋がっていない。一方、事例 II では、CL の過去の経験からくる事例を一般化することなく個々の問題として扱うことで、CL 自身の自己探索を促し、CL らしい生徒との関わり方について考えを深めるよう促しているため、自己の気づきへと導く展開となっている。(6 行)

[問い 2] 事例 I の CCt6、CCt7 と事例 II の CCt7 のキャリアコンサルタントの応答が、相応しいか、相応しくないかを考え、「相応しい」あるいは「相応しくない」のいずれかに○をつけ、その理由も解答欄に記述せよ。(15 点)

事例 I CCt6 相応しくない

CCt が CL の想いを「自信」という言葉に置き換えたことで戸惑いを示しているにもかかわらず、CCt6 で「経験も必要」と CCt の断定的な価値観に基づく応答により CL の抵抗を引き出してしまっている。

事例 I CCt7 相応しくない

「勇気を出されてはどうですか」の提案は、CCt の価値観に基づいた応答であり、相談者の意思や想いに寄り添わず断定的であり、クライアント中心とは言えない応答である。

事例 II CCt7 相応しい

CL7 で「関係が崩れていくことを恐れている」というキーワードに焦点を当て、さらに、崩れていく関係について深く尋ねることで、問題の本質に気づきをもたらしている応答である。

[問い 3] 事例Ⅰ・Ⅱ 共通部分と事例Ⅱにおいて、キャリアコンサルタントとしてあなたの考える相談者の問題と思われる点を解答欄に記述せよ。(10点)

クラス運営やトラブル対応に関して前任の担任の先生などに相談や確認することなく、コミュニケーションや仕事理解が不足している。また、相談者自身の行動特性や強み、弱みなど省みることなく「教師に向いていない」などと短絡的な思い込みがあり、自己理解が不足している。

[問い 4] 事例Ⅱのやり取りについて、あなたなら今後どのようなやり取りを面談で展開するか、具体的に解答欄に記述せよ。(10点)

教師として前向きに取り組んできた姿勢を支持しつつ、まずは事例検討会に参加するなどして、事例そのものにショックを受けるのではなく、その先の対処方略などについて学び、その上で、今年度担任や先輩の先生方に、担任になった際のクラス運営方法やトラブル対応などについて相談してみるよう促す。併せて、自身の行動特性や癖について振り返りをしながらそれぞれ書き出すなどして明確にし、自身の強みを生かし、無理のない自分らしいクラス運営について改めて考え取り組んでいけるよう支援していく。